

ヤスパース

2017年追試

問8 限界状況について述べた、次のヤスパースの文章を読み、その内容の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 36

私は常に状況のなかに存在し、争いや苦悩なしに生きることはできず、不可避免的に責めを自分に引き受け、死ななければならない。このような状況のことを、私は限界状況と名付ける。……限界状況は、壁のようなものであって、我々はそれにぶつかって挫折するだけである。……限界状況に対して、我々が計画や計算を携えて立ち向かい、それを克服しようとするのは、無意味である。限界状況に対する我々の有意義な立ち向かい方は、それとは全く別の活動性、すなわち、我々のうちにおける可能的実存の生成ということにある。我々が目を見開いて限界状況のなかへと入り込むことによって、我々は我々自身となるのである。限界状況は、知識によってはただ外面的にしか接近できないものだが、現実としてはただ実存にとってのみ感じ取られるようになる。限界状況を経験することと、実存することとは、同一のことなのである。

(『哲学』より)

- ① 争い・苦悩・責め・死といった限界状況があることを、知識として知ったとしてもそれは表面的である。大事なものは、限界状況を直接的に経験することによって、状況を分析することである。
- ② 限界状況は、どんなに計算や計画をしても変えることはできず、現実的にどうすることもできない。それゆえ、我々になし得るのは、限界状況から目をそらさず、この状況を受容しひたすら耐え忍ぶことである。
- ③ 争い・苦悩・責め・死といった限界状況は、私の実存とともに受け止めるものである。それゆえ、限界状況に立ち向かうということは、私自身が変わることによって、状況そのものを変えていくことである。

- ④ 限界状況は，我々にとっては壁のようなものであり，これを変えることは不可能である。しかし，限界状況に向き合うことで，我々は，真の実存の可能性にめざめることになる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第4問	問8	36	④	3

2015 年追試

問 8 次の文章は、本来的な自己について考察したヤスパースの考え方を説明したものである。□ a □～□ c □に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。□ 8 □

ヤスパースによれば、人間は、死、苦悩、争い、責めといった、人間の力では変えることも乗り越えることもできない現実、すなわち□ a □に直面して、挫折せざるを得ない。しかし、このとき人間は、自らの有限性を自覚することで、己を支えている□ b □に出会い、自己の実存にめざめるとした。また、彼は、死や苦悩のなかで挫折した人間が本来的な自己に至るには、孤独に引きこもるのではなく、他者と真実の自分を探究し合う必要を説いた。「彼が彼自身でなければ、私は私自身にはなり得ない」と語るヤスパースは、現存在としての自己が、本来的な自己に至る契機を□ c □にみるのである。

- | | | | |
|---|--------|-------------|---------------|
| ① | a 不条理 | b 超越者(包括者) | c アイデンティティの危機 |
| ② | a 不条理 | b 超越者(包括者) | c 実存的交わり |
| ③ | a 不条理 | b 世人(ダス-マン) | c アイデンティティの危機 |
| ④ | a 不条理 | b 世人(ダス-マン) | c 実存的交わり |
| ⑤ | a 限界状況 | b 超越者(包括者) | c アイデンティティの危機 |
| ⑥ | a 限界状況 | b 超越者(包括者) | c 実存的交わり |
| ⑦ | a 限界状況 | b 世人(ダス-マン) | c アイデンティティの危機 |
| ⑧ | a 限界状況 | b 世人(ダス-マン) | c 実存的交わり |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 8	8	⑥	3

2010 年追試

問 2 技術に関するヤスパースの思想の記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

32

- ① 人間は，技術を通して，生物学的に限界づけられた身体能力を動墜することで，本来的な実存の回復を果たすことができる。
- ② 人間は，技術の高度に発達した現代社会において，乗り越えることのできない限界状況に達している。
- ③ 人間は，技術を通して，自然に手を加えて新たな事物を作り出すことで，包括者としての自然の完成を手助けすることができる。
- ④ 人間は，現代の技術をもってしても，死や苦悩の問題を解決し得ないところに，その有限性を有している。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 5 問	問 2	32	④	2

2009 年本試

問 1 文章中の 23 に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ
選べ。 23

ガス灯や電灯で闇を追い払った近代文明が様々な問題を抱えていたように、理性による光の王国も多くの問題を ^{はら} んでいた。キルケゴールは、倫理的であろうとすると絶望せざるを得ない人間の現実を直視した。そこからみれば、理性を通じた自由の実現という構想は、人間の現実を無視した空論にすぎない。このようなキルケゴールの考え方は、後の 23 などに影響を与え、実存主義の道を切り開いた。

- ① ショーペンハウアー ② ベルンシュタイン
③ ヤスパース ④ フッサール

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 1	23	③	2

2004 年本試

問 5 生と死に関して、次のア～ウはそれぞれ ^{だれ}誰 の思想であるか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑨のうちから一つ選べ。 34

- ア 人間は、死や苦しみなど、自分の力ではどうすることもできない状況に直面したときに、その不安と絶望を越えて、超越者に出会い、しかも他の実存との「愛しながらの戦い」によって連帯することで、真の実存に目覚める。
- イ 人間も生物であり、生きるために他の生き物を傷つけざるをえない。しかし、倫理的な存在として、人間はすべての生命ある存在を愛さなければならない。この ^{かっとう}葛藤の中で各人の責任において行動を決定するのである。
- ウ 人間は、身体的存在としては、圧倒的に優勢な宇宙に比べ、きわめて無力で卑小である。だが、人間は理性的存在であり、自分が死ぬことを知っている。考え、知ることによって人間は偉大である。

- | | | |
|------------|------------|---------------|
| ① ア サルトル | イ ガンディー | ウ エラスムス |
| ② ア ヤスパース | イ シュヴァイツァー | ウ パスカル |
| ③ ア キルケゴール | イ ガンディー | ウ ピコ・デラ・ミランドラ |
| ④ ア サルトル | イ ヘーゲル | ウ ピコ・デラ・ミランドラ |
| ⑤ ア ヤスパース | イ シュヴァイツァー | ウ エラスムス |
| ⑥ ア キルケゴール | イ ヘーゲル | ウ エラスムス |
| ⑦ ア サルトル | イ ガンディー | ウ パスカル |
| ⑧ ア ヤスパース | イ ヘーゲル | ウ パスカル |
| ⑨ ア キルケゴール | イ シュヴァイツァー | ウ ピコ・デラ・ミランドラ |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 5	34	②	3

2002 年追試

問 7 現代の思想家たちも良心について考察している。そのうち、ヤスパースの考えとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。 17

- ① 良心は、人間が死、苦、争い、罪といった状況から逃避し、自己を喪失するのを妨げる。人間は良心を介して超越者を感じずるが、良心は超越者の声ではなく、自己自身の声である。
- ② 普通の人々の良心は、残酷さという本能が自己自身に向けられたものであり、一つの病理である。それに対して、真の良心は、自己に誠実であること、自己を肯定することを要請する。
- ③ 良心はきわめて複雑な感情である。それは、共感などの社会的本能に由来し、他人の称賛によって導かれ、理性、利己心、宗教的感情に支配され、教育や習慣を通じて強化される。
- ④ 良心の呼び声は本来的な自己の声である。死への不安から逃れ、日常の世界に埋没し、平均的で画一的な存在になった人間に対して、良心は本来的な自己というものに気づかせる。
- ⑤ 良心の呵責とは義務に反したときに感ずる苦痛である。人間は、刑罰のような外的な制裁によってだけでなく、良心の呵責という内的な制裁によっても、自己を規制するようになる。
- ⑥ 良心は、両親、教育者、社会的な環境の影響によって形成されるものである。それは、自己を監視する法廷、自我の検閲者として機能し、欲望や衝動を禁止したり抑制したりする。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 7	17	①	2

2000 年本試

問 3 近代以降，科学技術的な知とは異なる知を示した思想家がいる。彼らについての記述として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

20

- ① モンテーニュは，懐疑論的な立場から，偏見や独断を排して不断に自己省察を行うことで，人間性の真実を深く探究した。
- ② パスカルは，順序正しく推論を行う「幾何学的精神」に対し，直観的で感性的な「繊細の精神」の重要性を説いた。
- ③ ヤスパースは，ともに本来の自己をめざす者同士の実存的交わりを「愛しながらの戦い」と呼び，これを無神論的実存主義の原則とした。
- ④ シュヴァイツァーは，科学技術による自然支配が生命の軽視をもたらしたことを批判し，倫理の原理として「生命への畏敬^{いけい}」を唱えた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 3	20	③	3